

最近の原油価格の上昇について (過去の原油高騰局面との比較)

最近の原油価格上昇によるわが国経済への影響は、引き続き、注視していく必要があるが、
過去の石油危機と比較すれば、

(参考)原油価格が10\$/Bbl上昇した場合の
各国GDPへの影響 - IEA試算(2004年5月)

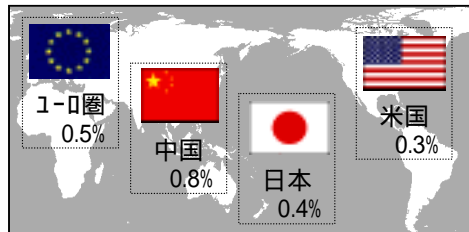
エネルギーの供給構造(石油の一次供給シェア、発電シェア)

供給安定性(石油備蓄制度の充実)

為替水準などが大きく変化しており、

相対的に原油価格の変動影響を受け難い経済構造

になっていることに留意する必要がある。



	第1次 石油危機	第2次 石油危機	中東 湾岸危機	現在
時 期	1973年10月 ~ 1974年8月	1978年10月 ~ 1982年4月	1990年8月 ~ 1991年2月	—
原油価格と上昇幅 (危機直前とピーク時対比)	<アラビアン・ライト公示価格> 約4倍 73年10月 : 74年1月 3.0 \$/Bbl → 11.7 \$/Bbl	<アラビアン・ライトスポット> 約3倍 78年9月 : 80年11月 12.8 \$/Bbl → 42.8 \$/Bbl	<ドバイスポット> 約2倍 90年7月 : 90年10月 15.3 \$/Bbl → 31.5 \$/Bbl	<ドバイスポット> 1.5倍 03年4月 : 04年5月 23.5 \$/Bbl → 34.7 \$/Bbl
一次エネルギー供給比率	<73FY>	<79FY>	<90FY>	<02FY>
石油	77 %	72 %	57 %	50 %
〔石炭〕	〔16〕	〔14〕	〔17〕	〔20〕
〔天然ガス〕	〔2〕	〔5〕	〔10〕	〔14〕
〔原子力〕	〔1〕	〔4〕	〔10〕	〔12〕
石油火力の発電比率	<73FY> 71 %	<79FY> 51 %	<90FY> 26 %	<03FY> 10 %
原油輸入量	<73FY> 290 百万KL	<79FY> 274 百万KL	<90FY> 240 百万KL	<03FY> 244 百万KL
日本の輸入総額中の 原油輸入額比率	23 %	39 %	19 %	15 %
石油の国内備蓄水準	<73FY末> 67 日分 (民備67日、国備ゼロ)	<79FY末> 92 日分 (民備85日、国備7日)	<90FY末> 142 日分 (民備88日、国備54日)	<03FY末> 165 日分 (民備75日、国備90日)
原油 C I F (円貨)	<73FY> 8.3 円/L	<79FY> 33.5 円/L	<90FY> 20.3 円/L	<04年6月> 25.5 円/L
原油価格(ドルベース)	4.8 \$/Bbl	23.1 \$/Bbl	23.3 \$/Bbl	36.2 \$/Bbl
為替レート	279 円/\$	231 円/\$	138 円/\$	112 円/\$

(参考)湾岸危機当時との価格対比

現在の国内市況は、湾岸危機当時と比較して、

原油CIF価格が+5円/L上昇しているが、

逆に、末端価格は、ガソリンで 21円/L、

灯油で 3円/L下落している。

	湾岸危機 90年度	現在 04年6月	変化幅
原油CIF	20.3 円/L	25.5 円/L	+5.2 円/L

消費税アップ影響除き

<末端価格(消費税込み)>

(97年4月:3 5%)

ガソリン	132.0 円/L	112.1 円/L	19.9 円/L → 21.4 円/L
灯油	52.0 円/L	50.2 円/L	1.8 円/L → 2.7 円/L